

## Building lifestyle around Ferrari

# ターボと着物とハイブリッドと

今年のフェラーリ界は忙しい。ジュネーブでのF8トリビュート発表からわずか3ヵ月弱で、SF90ストラダーレが発表となった。本誌もその情報に、揺れに揺れて……。



**定** 期刊行物で次号予告を掲載することは、若干のリスクを伴う。編集者としては次号も購入頂きたいという率直な想いが強いのだが、状況は日々一刻と変わっていくので内容が変更となることも多々あり、楽しみにしていた方を裏切ってしまうケースも多い。またそれに縛られてしまうことで内容を狭める可能性や、逆に"その特集なら買わない"とそっぽを向かれる可能性も。とういわけで、単なるタイトルのひとつではあるが、毎回編集者の悩みが隠されている。

本誌前号に掲載した次号予告は『ターボに魅せられて』だった。その時点でP18～に掲載した、ターボ・フェラーリとステドニーのコレクター氏の取材は終了していたので、それを軸としたターボ・フェラーリ特集を企画していた。ところが5月末に事態は急転直下。そう、フェラーリ初の量産ハイブリッドモデルである『SF90ストラダーレ』がデビューしたのだ。

5月発表の噂は以前からあった。誤解されている方も多いうのでちゃんと書いておきたいが、そういった大きな発表に関して事前にフェラーリから"ナイショで" (業界用語ではエンバゴがかかる、解禁日前情報などという) 知らされたことは、少なくとも私が編集長になってからは一度としてない。春のジュネーブ・ショーで発表されたF8トリブートに関しても、『詳細はいいから何かが発表されるかどうかだけでも教えて欲しい』と広報担当者へ連絡したところ、きっぱり断られた。嗚呼、義理も人情もない……とは愚直にしかならないが、まあそりゃ

そうだろうなあ、とも思う。そんな感じであるから、今回SF90ストラダーレの実車は見えておらず、だからして、表紙や巻頭特集に持ってくることはかなり迷った。え？ 迷うの!?! お思いかもかもしれないが、もはや本誌のような季刊誌は"超"スローメディアであるから、既にネットや月刊誌で情報が出尽くしたものを、編集者が取材していないのにも関わらず、そのメインとして扱うのには抵抗があるのだ。もし全幅の信頼をおく大谷達也さんからレポートの申し出がなかったら、恐らく今号の誌面はかなり違ったものになったであろう。

ところでその前となる4月28日、以前誌面にもご登場頂いた矢作千鶴子さんからお誘いを受け、10回記念となる『温故知新ファッションショー』に出演させて頂いた。写真のように着物、大島紬のアンサンブルを着てランウェイを歩いたのである。もちろん初めての経験で、こっそり歩き方は練習して行ったものの、会場に向かう駅で降りるのを忘れるほど緊張した。

ところでこのページで手を止めた方は、既にネットやSNSで見慣れたSF90ストラダーレの写真ではなく、『着物でこの人は何をやっているの!?!』という違和感が理由かもしれない。そうなのだ。企画とはそういうものなのだ。もしこれを軸に『和とフェラーリ』という特集になったら、とりあえず手に取って見てみようと思う方もいれば、そっぽを向く方もいるだろう。しかし私が作っていききたいものは、そういう絶対に他では読めないもの。そしてV8ターボに加え3モーターを搭載するSF90ストラダーレよろしく様々なものをハイブリッドし、皆さんに楽しんで頂きたいのが本意である。お後がよろしいようで。



文 ● 平井大介  
text by Daisuke Hirai

写真 ● 尾形和美 / フェラーリ  
photograph by Kazumi Ogata / Ferrari S.p.A.